（別紙様式例3）

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2023年2月11日

事業所名：発達支援ルームてとて

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	6	4		あまり使わない部屋がある。広いため職員数が足りていても全体を見渡すのが難しい。	20					あまり使わない部屋も含め、さらに有効な部屋の活用を考える。
	2	職員の適切な配置	6	4		部屋数が多く、必然的に職員配置を厚めにしている。何事に無ければ十分だが、トラブルがあった時に手薄になる時がある。	17			3		保護者の方にも時間を取って頂き、活動の様子をみてもらう機会を作る。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	7	3		数ある部屋を活動内容別に使い分かりやすい構造化が行えている。視覚優位の利用者が多いので、絵カード等活用できている。聴覚過敏に対して適切でない反響が気になる部屋がある。	18	1		1		音響対策が充分でなく、聴覚過敏に配慮した環境整備を検討実施する。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	6	4		食事等の際の消毒やパーテーションに留意できている。トイレへの入室が上靴のままなのが気になる。パニックになった児童がいると全体が落ち着かなくなる所に配慮したい。手洗い・ロッカーが小さめ。	19	1				パニック時により配慮できる環境整備を行う。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	3	7		月2回のミーティングで事故・ヒヤリの振り返りを実施しPDCAを回している。当日活動の振り返り結果の周知が、職員の出勤日の偏りを超えて全体に出来ていない部分がある。						当日活動の振り返り結果等を、出勤日に関係なく職員全体に周知出来る仕組み・ルーティーンを整備する。
	2	アンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握と業務改善の実施	8	2		ミーティングで周知して、職員で改善点を話し合っている。						アンケート結果を全体に共有し、さらに改善案を出し合い実施する。
	3	自己評価結果の公開	8	2		毎年自法人ホームページで内容を公開している。						
	4	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	2	5	3	外部評価を導入できていない。						外部評価を検討する。
	5	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	9	1		年間で計画し外部研修受講や伝達講習を積極的に実施している。コロナ禍前のようにはできていないが、参加できる体制ではあると思う。						外部研修以外でも社内研修として法人内障害児通所事業所とお連携し研修を計画する。
適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	9	1		一時に比べコロナ禍の中での保護者との面談実施も一定出来ている。	20					アセスメントが不足している面があるので、チームで話す時間を確保し、アセスメントがより具体的な支援の立案に繋げられるようにする。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	9	1		事業所内で評価し次の計画につなげているが、アセスメントが不足している面がある。	20					同上
	3	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	8	2		個別活動・集団活動をそれぞれ組めているが、集団活動の中での個別最適な支援については行き届いていない面がある。						集団活動プログラム策定時に、集団活動における個別最適についての検討を行う。
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	7	3		一定出来ているが、支援する職員間でのアプローチ方法の共有や共通理解が不足している部分がある。	18	1		1		支援する職員間でのアプローチ方法の共有や共通理解が深まる仕組み・ルーティーンを整備する。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	6	4		職員間で意見交換も行って立案しているが、活動プログラム担当者のウェイトが大きくもっと工夫が必要だと感じている。						活動プログラム策定のルーティーンを見直し、よりチームで参加できるようにする。
	6	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	8	2		新しい取り組みも考えているが、固定化されたものもある。固定化された中に発達過程として積み上げていくものもある。	17	2		1		定例ミーティング等で新しい取り組みについてのアイディアを出していく。
	7	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	8	2		学校休業日や休暇を意識して長い時間ならではで出来る設定をしているが、きめ細やかかと問われれば十分でない。						
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	8	2		学校へ迎えに行く前に昼礼を実施、その日の支援内容や役割分担についての確認を行っている。事前の役割分担設定が十分でない時がある。						継続して昼礼で確認を行い、また役割分担した内容について、相互で認識し、職員間で声掛け合う。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	7	3		全員参加は出来ないが、送迎終わりの時間を活用し、その日行われた支援の振り返りと気付いた事を話し記録している。その共有が十分でない部分がある。						出勤でない職員・参加できない職員に対しての共有方法を設ける。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	6	4		記録するスキル自体が拙い部分もあり、また記録に繋がってくる支援関わりに今後改善が必要と感じている。						記述の仕方・表現等についてや記録に繋がる支援・関わりについて職員間で意見交換する。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	8	2		事業所内で評価し次の計画につなげているが、前述の通りアセスメントが不足している面がある。						チームで話す時間を確保し、アセスメントがより具体的な支援の立案に繋げられるようにする。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	7	3		コロナ禍もあり、サービス担当者会議をあまり実施出来ておらず、開催時には児童発達支援管理責任者が参加している。						サービス担当者会議開催を積極的に働きかける。
	2	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施										
	3	**（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）** 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備										
	4	児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校（小学部）等との間での支援内容等の十分な情報共有	4	5	1	必要に応じて学校からの情報提供は受けているが十分でなく、他放課後等デイサービスからの情報提供をあまり受けられておらず、今後の課題である。						電話、状況によってはzoom等を活用し、普段から定期的に情報共有を図ること等を検討する。
	5	他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	4	5	1	前述同様、他放課後等デイサービスへの情報提供等他事業所との連携があまり出来ておらず、今後の課題である。						他の障害福祉サービス事業所等への移行がある場合には、積極的に情報提供できるよう準備しておく。
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	2	7	1	外部研修受講を今までよりも積極的にすすめ、その伝達講習を事業所ミーティングで実施している。センター等との連携はあまりできていない。						スキルに応じた職員個別の研修計画を策定する。
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	5	2	3	近年はコロナ禍もあってあまり実施出来ていなかったが、今年度は近くの保育園にイベントを活用して訪問等行い、機会を増やしている。	7	3	1	9		各季節イベント等を通して定期的に交流ができるよう計画する。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	1	4	5	隣地の高齢者事業所へ季節イベントを活用して訪問したり、行事事時に参加しているのにとどまり、地域住民の招待等はできていない。						感染予防対策を徹底した上で、普段から定期的に交流ができないか検討する。
保護者への説明責任・連携支援	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	5	5		随時の説明が十分でない部分がある。	20					定期的に保護者の方にも時間を取って頂き、丁寧に説明させてもらう機会を作る。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	8	2		計画更新時・変更時には一定説明を行っているが、十分でない部分がある。	20					定期的に保護者の方にも時間を取って頂き、丁寧に説明させてもらう機会を作る。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント･トレーニング等の支援の実施	2	5	3	保護者と話を出来ていても、ペアレント･トレーニングの視点は十分でないと感じている。	18	5		2		ペアレント･トレーニングに関する社内勉強会を開催する。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	7	3		子どもの様子や課題について保護者に話をする機会が十分でないと感じており、共通理解の徹底は不足している。	18	2				定期的に保護者の方にも時間を取って頂き、丁寧にお話しさせてもらう機会を作る。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	6	4		十分ではないかもしれないが、保護者との面談時に一定時間を取って悩みを聞き必要な助言を行っている。時間は短いが送迎時にお話しすることもある。	18	2				定期的に保護者の方にも時間を取って頂き、丁寧に悩みを聞かせてもらう機会を作る。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	1	4	5	今年は1回だけ夏祭りと称して、事業所にご家族をお招きしたが、定例の保護者会は実施できていない。参観日や勉強会・お花見・運動会等、今後保護者が交流できる場を作っていきたい。	1	6	3	10		参観日や勉強会・お花見・運動会等、今後保護者が交流できる場を作る。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	9	1		苦情があった場合には、内容を全職員に周知し改善策を実施している。	16	1		3		引き続き、相手の立場を考えた迅速かつ適切な対応をしていく。
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	6	4		視覚優位の利用者が多く、絵カード・写真を活用したスケジュールボード等は使っている。さらに踏み込んだコミュニケーションの方法やツールを検討したい。	18	1		1		所属の言語聴覚士とも相談し、意思の疎通や情報伝達のための配慮をより実施していく。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	7	2	1	インスタグラムを活用して、毎日の活動の様子や行事予定等は発信している。会報等は作っていない。	19			1	インスタで日々の活動をアップしていただき、子ども達の楽しそうな様子が伝わってきます。取り組みの方向性も把握できてとても安心感があります。	インスタ以外にも、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を保護者への発信する仕組みを考える。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	8	2		個人情報に取り扱いについては留意しているが、職員間での利用者の情報共有の持ち方もさらに検討したい。	18	1		1		個人情報取り扱いに不備が出ないよう、職員間での利用者の情報共有の持ち方について見直す。

区分		チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価					評価を踏まえた改善内容・改善目標
			はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	保護者の方のご意見	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	6	3	1	マニュアル等は作成してあるが、周知徹底が十分でない。	14	5		1		ホームページ等を使って周知を図る。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	7	3		年間計画して訓練は実施しているが、よりリアルな想定を行って進化させていくことが必要だと感じている。	14	1		5		事業継続計画とも関連させながら、よりリアルな訓練の立案をする。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	7	3		虐待防止委員会を年4回、虐待防止の職員研修会を年1回、法人内の障害児通所事業所と合同で開催している。						普段のヒヤリ･ハットでも、虐待につながるような事柄を意識して取り上げていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	4	6		前提として、やむを得ず身体拘束を行う場合における指針を設け、身体拘束適正化委員会を虐待防止委員会と並行して実施している。						3か月に1回開催される身体拘束適正化委員会前のミーティングで事案がないか確認する。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	8	2		職員に周知、冷蔵庫の扉に食物アレルギーのある子どもの表を貼ってある。						食物アレルギーとその対応について、事業所内研修会を実施する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	9	1		事故報告書・ヒヤリハットは各バインダー綴じ、職員出勤時に閲覧し、月2回ミーティングで、事故とヒヤリハットの内容・改善策の振り返りをしている。						ヒヤリハットをもっと出しやすい仕組みを考え、実施する。
満足度	1	子どもは通所を楽しみにしているか					19	1				
	2	事業所の支援に満足しているか					19	1				